

日本海洋学会 2013 年度第 2 回幹事会 議事録

日時:2013 年 5 月 17 日(金) 13:30~17:00

場所:竹橋パレスサイドビル マイナビルーム 2F-V

出席者:植松会長、須賀副会長、岡、小畑、川合、河野、鈴木、原田、日比谷、山中、寄高、事務局毎日学術フォーラム(出戸、平坂)

欠席者:神田、津田、久保田、杉崎

議題

1. 議事録(案)確認(川合幹事)

2013 年度第 1 回幹事会、春季評議員会、通常総会の議事録を確認した。

2. 審議事項

(1)入退会について(岡幹事)

入退会(2013 年 2~3 月)を承認した。入会 0 名、退会 105 名、除名・逝去 0 名、2013 年 3 月末現在会員数 1712 名。未納による退会者は 40 名強。学生会員の退会者が主か。

(2)シンポジウム等の協賛・共催の依頼について(岡幹事)

シンポジウム等の後援・協賛 5 件について、すでに審議し承諾したことが報告された。

(3)募集・推薦等の依頼について(岡幹事)

公募・推薦の依頼、その他シンポジウム・講演等の案内について、適宜 ML を通じて周知、対処したことが報告された。

(4)会費 3 年間未納者について(岡幹事)

未納者 81 名についてのリストを確認し、追跡できる会員に対し納入を促すこととした。

(5)名誉会員の推薦について(小畑幹事)

名誉会員は現在 15 名であるが、推薦基準などに関する幹事会内規に基づき、次回幹事会まで会員数が 1600 名を超えた場合、1 名の名誉会員候補者の推薦を行うことが承認された。

(6)パンフレット制作について(原田幹事)

他学会や研究会、サイエンスカフェ等で配布するための小パンフレット(日本語版、1000 部)の製作が提案され、承認された。担当は原田幹事とする。

(7)若手集会助成について(須賀副会長)

若手集会助成の方法について議論した結果、36 歳未満の者を応募者とする集会を条件として公募を行うこととなった。採択件数は 1-2 件の予定。公募案を須賀副会長が作成し、メール審議の後、6 月初めに公募を行い、7 月の幹事会で決定する。また、助成

をうけた集会の報告を JOSNL に掲載することとする。

(8) 札幌秋季大会での新企画提案について(植松会長)

秋季大会実行委員会から、秋季大会で立ち上げる予定の特別セッション(海洋工学、古環境、震災関連、南極学際、海洋測器、北海道周辺の海洋・水産など)において非学会員が発表を行えるようにしたい(参加登録は有料)という要望が出された。これについて議論した結果、非会員の講演は依頼講演として認めることとなった。

(9) 経費削減について(植松会長・小畑幹事)

A. 支出減

1. 海の研究の印刷について、小畑幹事および久保田幹事が印刷会社とさらに相談し、経費削減を検討することとなった。
2. 海の研究の団体・賛助会員への冊子送付頻度を減らすため、冊子体のみ合併号として年3回の印刷に変更することになった。
3. JOSNL の印刷費について、複数業者に見積もりを取った結果、新たな業者との1年契約を行うことにより経費を削減することができた。
4. JOSNL の送付時期を他の印刷物と同期させることとした。
5. 編集経費の見直しを行った。
6. 学会事務経費の見直しを行った。
7. 異動者リストの送付は名簿発行のない年に1回のみ行うこととなった。
8. 名簿の発行形態について、予算の見積もりを含めてさらなる情報収集を行った後、改めて審議を行うこととなった。
9. 会費のカード払いの手数料で30万円程度かかっている。会費請求の際、銀行振り込みや自動引き落としを使うよう推奨することとした。

B. 収入増

1. 製作予定のパンフレットの活用、秋季大会で認めた依頼講演による非会員との交流により、会員増を目指すことが確認された。
2. 企業の広告掲載の勧誘をすすめる他、特別な PR 広告記事の掲載を認めて課金する方法が提案された。また、ホームページにも広告を掲載してはどうかという提案があった。これらについては、秋の大会時に会長が企業関係者との懇談会を持ち、企業側の意見を聞くこととなった。
3. 大会での収入増のためのアイデアがいくつか紹介された。また、東海大学で採用した大会 Web サイトを今後も積極的に活用すべきとの意見が出された。これらについては大会事務局と意見・情報交換を行っていくこととなった。

2. 報告事項

(1) 会長

「福島と海」シンポジウム開催について報告があった。冊子が刊行されたので、後日皆に配布する。

(2) 副会長

大会に間に合うよう、学会情報を年二回、JOSNLへ掲載する。Webへの掲載は今後の検討事項としたい。

(3) 編集

J0(日比谷幹事)：J0発行状況についての報告があった。順調に発刊している。宗林元編集委員に代わる編集委員は選考中である。

海の研究(久保田編集委員長、代理 小畑幹事)：海の研究発行状況についての報告があった。22巻3号を発行し、4号の校正中である。

JOSNL(津田編集委員長、代理 小畑幹事)：原稿が完成した。24ページの契約を4ページオーバーしているので、年間で帳尻を合わせる予定。次の締め切りは6月末。

(4) 研究発表(鈴村幹事)

次回幹事会で長崎大会について審議予定である。

(5) 広報(原田幹事)

JpGU大会でJOSNLのバックナンバーと入会申込書を置きたい。入会申込書を改定し、入会動機を把握できるようにしたい。ツイッターのアカウントはあるが利用していない。

(6) 海洋環境問題委員会(鈴村幹事)

青い海助成の報告書を作成中である。

(7) 教育問題研究会(川合幹事)

地学オリンピック委員会からの依頼により、問題作成委員・点検委員を推薦したこと、合宿の講師に市川洋さんを推薦したことの報告があった。6月19日に教育問題検討委員会が開催され、原田幹事が代理出席する予定であることが報告された。

(8) 海洋未来技術研究会・日本科学振興財団(須賀副会長)

予算が残っているため、海洋未来技術研究会海外渡航援助の追加募集を行う予定である。

(9) 将来構想委員会(岡幹事・植松会長)

大型研究プランについて、5月22日にJpGU大会で海洋学会からの二件の提案の発表を行うこととなった。

(10) 震災対応(植松会長)

海鷹丸による福島沖調査航海が行われていることが報告された。米国からも6名が参

加している。

(11)水産海洋学研究連絡協議会(植松会長)

協議会主催のシンポジウムが本年度11月に開催され、海洋学会から講演者を推薦する予定であることが報告された。

(12)若手対応(仮称)(須賀副会長)

名称を「若手支援」とすること、札幌での秋季大会期間中に若手との意見交換の機会を設ける予定であることが報告された。

(13)その他

(植松会長・須賀副会長)

外部の各賞に対して、海洋学会からの推薦を積極的に行うことが確認された。

(岡幹事)

モデル開発に関する研究会の立ち上げが計画されていることが報告された。

次回幹事会： 2013年7月19日(金)13:30より行うこととなった。